

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2022 年 9 月 12 日 (火) 2 限 実施

第 2 回 考 査

千葉県立佐倉高等学校 第 3 学年 A～G 組

Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文を読み、下の問い(問1~問5)に答えよ。(配点 22)

ヘレニズム時代の思想は、(1) 古典時代の遺産の継承と整理、(2) 世界のうちに個として生きるための知恵を模索して、多数の学派が展開した「生きる術」ars vivendiとしての多数の哲学思想の並存、という二要素によって特徴づけられる。

(1) 遺産の継承 エジプトの [1]、トルコのペルガモンなどアレクサンドロス大王の後継者の首都に建設された大図書館には古典作家の著作が収集され、批判的に校訂され、編纂された。「古典文献学」の成立の端緒がここにある。現存する『[2] 著作集』の編纂と正典の決定はこの紀元前3世紀にさかのぼるとみなされている。

(2) 諸学派 古典期のポリス共同体の崩壊を背景として、各人は世界のうちに個として生きるための知恵を模索した。そのなかには生粋のギリシア人ではない人、遠隔の地の生まれの人も含まれており、多彩な思想が展開された。複数の学派の連立と並存を特徴とする。おもなものは以下の五派である。[1]アカデメイア派 [2]の学園アカデメイアを継承する人々。中期以後、懐疑主義を標榜し、知恵を獲得することではなく、探究することに哲学があるとした。[2] [3] 派 アリストテレスの学園リケイオンを継承する人々。数学、天文学、生物学、医学など、個別科学研究を推進する人々を輩出した。[3]ストア派 ヘレニズム時代を代表する人生観哲学であり、ローマ帝政期に至るまで各時代を代表する数多くの思想家たちを生んだ。運命の転変によって動かされない [4] という心の強さの獲得を賢者の理想とした。[4] エピクロス派 唯物論的な世界観と洗練された快樂主義を特徴とする。「 5]を理想とした。[5] 懐疑派 知識の取得ではなく、問題の形成と探究を哲学の仕事とした。目的は [5] を獲得することだった。

これらの諸派は古典時代の哲学の原理をなんらか継承しながら、これを生きるための知恵として形成し、通俗化するものである。そこには古典時代の哲学の原理の反省と再評価もあり、移行期の哲学として次代の思想を準備した。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [5] に入る最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1]

①	リディア	②	トロイア
③	コリントス	④	アレクサンドリア

[2]

①	プラトン	②	プロタゴラス
③	ピュタゴラス	④	ソクラテス

[3]

①	メソテース	②	ペリパトス
③	オルガノン	④	グノーシス

[4]

①	アタラクシア	②	アウタルケイア
③	アパテイア	④	エウコノミア

- [5] ⎧ ① アタラクシア ② アウタルケイア
 ⎩ ③ アパテイア ④ エウコノミア

問2 次のストア派について記述された文中の空欄 [6] に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

ヘレニズム期の哲学を代表する学派の一つであるストア派は、「あらゆることが [6] に即して生じる」とする [6] 論を説いた。このストア派の [6] 論をめぐっては、ヘレニズム期からローマ帝政期にかけて、賛否双方の立場から多くの議論がなされた。その焦点となったのは、[6] 論がいわゆる「自由意志」の存在を否定してしまうのではないかという問題である。これは現代に至るまで論じ続けられている決定論と自由意志の問題の歴史的起源と言え、哲学史的にはもちろんのこと純粋に哲学的に見ても興味深い論争となっている。

- ① 法律 ② 原子 ③ 禁欲 ④ 運命

問3 次の、キプロスのゼノンが学んだキュニコス派についての記述中の空欄 [7] ～ [9] に入る最も適当な語を、下の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。

キュニコス派は犬儒派ともいう。アンチステネスを祖とするギリシア哲学の一派。キュニコス派の名はアンチステネスが教鞭をとったキュノサルゲスの地名、あるいはシノペの [7] の行なったキュニコス・ビオス (=「[8]」) に由来するといわれている。アンチステネスが徳の理想をただ無欲にのみ認めたとように、キュニコス派の人々は徳と哲学を尊重するとはしたものの、自然に従う生活のうちに完全な独立と無欲を得て、芸術や学問をはじめあらゆる特定の目的を放棄することに徳を見出した。忍耐と諦めの力によって到達されるこの哲学においては、もはや哲学的思考の豊かな展開は認められず、社会生活に対する嘲笑や風刺、つまり [9] がその本領であった。クラテス、ヒッパルキア、メトロクレス、ピオンらが出た前3世紀頃が盛んであり、以後は衰えたが、ローマ帝国が道徳的に墮落してきた1世紀頃に復活した。ルキアノスはこのキュニコス派の人々の乞食のような生活態度や無教養を批判した。

- [7] ①マルキオン ②プロティノス ③ディオゲネス ④オリゲネス

- [8] ①犬の生活 ②猫の生活 ③樽の生活 ④裸の生活

- [9] ①アフォリズム ②アイロニー ③ヒューモア ④シニシズム

問4 次の文章は、ストア派の理法の考え方を発展させたキケロが、法の位置づけについて述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[10] (2016年本試験)

まるで盗賊が寄り合って制定した規則同様に、法律という名とは関わりのない多くの有害無益な規則が諸国に制定されているのは、驚いたことだ。例えば、無知で無経験な人間が薬の代わりに致死の毒を処方した場合、それは医者^の処方であるとはとうてい言えないように、国家の場合にも、たとえ国民が有害な規則を受け入れたとしても、それは法律の名には値しないのだ。したがって、法律とは正邪の区別にほかならず、同時にまた、万物の根源であるあの太古以来の自然というものの表現でもあるのだ。そして、悪人を罰し善人を守護する任を帯びた、人の世の法律は、この自然を範として定められたものだ。 (『法律について』より)

- ① 法律は自然に従って定められる限り、善人と悪人を公正に裁くことができる。というのも、太古以来、善人の総意によって、自然そのものが管理され、形作られてきたからである。
- ② 法律は自然に従って定められる限り、善悪と正邪を誤りなく区別することができる。なぜなら、法が模範とすべき原初からの自然は、あらゆるものの根源でもあるからである。
- ③ 法律は自然に従って定められただけでは、善人と悪人を公正に裁くことはできない。というのも、法律を用いるのは国家であり、それを構成する国民は自然とは関わりが無いからである。
- ④ 法律は自然に従って定められただけでは、善悪と正邪を誤りなく区別することはできない。なぜなら、豊富な知識や経験に基づかなければ、法律は有害なものともなり得るからである。

問5 キケロは、その著作『老年について』において、人生に関して次のような考え方を伝えている。この考え方に合致する記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[11] (2006年本試験)

少なくともわしの見るところでは間違いなく、^{すべて}全ての仕事に満ち足りることが人生に満ち足りることになる。少年期には少年期の仕事^がちゃんとあるが、だからといって青年がそれを愛惜するだろうか。青年期の入口にある仕事を中年と呼ばれるすでに安定した世代が追い求めるであろうか。中年期にももちろん仕事があるが、老年になってそれが欲しがられたいはしない。そして老年にはいわば最後の仕事がある。それ故、前の各年代の仕事が消えていくように、老年の仕事も消えてなくなるのだ。そしてそうなった時には、人生に満ち足りて死の時が熟するのである。

- ① 人の一生は春夏秋冬の四季^{たと}に喩えることができる。春には春の、冬には冬の特徴があり、他の季節にはないものである。それぞれの季節の特徴はその季節において実現されるように、少年期を始めそれぞれの時期になすべきことをなしていくのが、善き生である。
- ② 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。春と秋は過ごしやすい好ましい季節であり、夏と冬は過ごすのに困難を伴う季節である。そのように人の一生も浮き沈みがあるが、それぞれの期間、どんな境遇にあっても全力を尽くすことが、善き生である。
- ③ 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。一年が春夏秋冬で終わるように、人の一生も春夏秋冬で終わる。若くして死ぬ人にも、長命の人にもそれぞれの春夏秋冬があるのである。いつ死を迎えるにせよ、与えられた期間精一杯生きることが、善き生である。
- ④ 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。春の後に夏が来るように季節の順序は定まっています、逆になることはない。そのように人の一生も一方向に向かって進行し、後戻りすることはないのだから、どの時期にあってもつねに将来に向かって努力することが、善き生である。

第2問 次の新プラトン主義についての文章を読み、下の問い(問1～問2)に答えよ。(配点 4)

後3世紀にプロティノスによって実質的に創始され、6世紀まで存続した哲学思潮。その後のヨーロッパ哲学史上にプラトン主義の伝統を定着させる働きをした。プロティノス自身かなり独創的な思想家であったが、自分の思想をすべてプラトン哲学からの帰結であると称していたので、この名がある。しかしプラトンにみられる政治的・実践的関心はあまりなく、もっぱら神学的・形而上学的局面に集中する。プロティノスに影響を与えたのはプラトン、アリストテレス、ストア学派、新ピタゴラス学派などの哲学であるが、ギリシア哲学ばかりではなく、その師アンモニオス・サッカスを介してオリエント、エジプトの神秘学からも多大のものを受け継いだ。この傾向は神智学(テオソフィア)とか接神術(テウルギア)と呼ばれる。プロティノスに至ってギリシア・ローマ文明とオリエント・エジプト文明が完全に一体化したといつてよいだろう。

ユスティニアヌス帝の勅令によるアカデメイアの閉鎖(529)など6世紀の異教弾圧で、西方世界にはこの伝統は表だってはとぎれてしまうが、アウグスティヌス、ボエティウス、偽ディオニュシウス・アレオパギタなどの著作を通してキリスト教の教義形成に無視できない影響を与えたほか、東方キリスト教会にはフィロカリアという形で受け継がれ、さらにイスラム世界に入って、スーフィズムの哲学的原理として発展した。古代ギリシアの学術の継承とあいまって数学、天文学など自然諸科学の発展に対する寄与も小さくない。この伝統がルネサンスとともに西方に復帰しフィチーノなどの〈ルネサンス新プラトン主義〉を生み、各地のアカデミー運動の原動力となった。ケンブリッジ・プラトン学派に属する人々や T. テーラーは近代新プラトン主義者といえよう。ドイツ観念論も新プラトン主義のドイツ的変容とみる人もいる。

問1 上の文から読み取ることができるプロティノスの思想についての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[12]

- ① 「万物の原理は数である」という教説を発展させて宇宙・人間・神を論じる思想が、プロティノスの新プラトン主義に影響を与えた。
- ② プロティノスは哲学を学んだ者が国家の統治を担うべきであるとする、プラトンの哲人政治の理想を実現しようとした。
- ③ プロティノスはアンモニオス・サッカスにオリエント・エジプトの神秘学を伝え、これらは神智学や接神術と呼ばれた。
- ④ プロティノスの思想は、プラトンの思想を忠実に再現して継承したもので、オリエント・エジプト世界にイデア論を広めた。

問2 上の文から読み取ることができる新プラトン主義の伝統についての記述として適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[13]

- ① 偽ディオニュシウス・アレオパギタは、感覚的な光は神的な光の内在と超越を象徴するものとみなし、万物が〈光の父〉なる神から発出・放射し、還帰することを説き、キリスト教的象徴主義の一大源泉となった。
- ② アウグスチヌスは、「美への愛」を意味するフィロカリアについて、真なる美とは知であり、「美への愛」は「知への愛」 philosophia のいわば妹であるとして、ローマ・カトリックに神秘主義的修道思想のヘシカズムを伝えた。
- ③ イスラム世界では、アリストテレスにつぐ第二の師と尊称されたファーラービーにより、宇宙の階層的構造形成に関して英知体とその発出の理論が展開され、イブン・シーナーに継承されてスーフィズムに影響を与えた。
- ④ フィチーノは、ヘルメス・トリスメギストスからプラトンに至り、さらに新プラトン主義を経て、教父や中世の思想家へと通じる一つの神学的伝統の流れのなかに、神の啓示に基づいたピア・フィロソフィア(敬虔の哲学)があるとした。

第4問 旧約聖書についての次の文章を読み、下の問い(問1～問4)に答えよ。(配点 24)

ラテン語の *testamentum* は[14],つまり神と人類との約束の意。ヘブライ語の *berith*,ギリシア語の *diathēkē* に相当する。旧約聖書は本来ユダヤ教の聖典であり、正式の名は『律法, 預言書と諸書』 *tôrāh nebi'im ketûbim*。キリスト教でも新約聖書とともに正典とされている。「旧約」の名はキリスト教の立場からの名称であり、『コリント人への第2の手紙』3章14にみえるが, 2世紀末頃から新約と区別するために用いられるようになった。旧約聖書の原典である[15]語正典(24巻, 現行39書, 一部はアラム語で書かれている)の最終的決定は1世紀末頃とされている。この24巻は律法(モーセ五書といわれる創世記,[16],レビ記, 民数記, 申命記), 預言書, 諸書の3部に大別され, さらに預言書は前の預言書(ヨシュア記, 士師記, サムエル記, 列王紀)とあとの預言書([17], エレミヤ, エゼキエル, 12小預言書)とに分れる。諸書はギリシア語では *hagiographa* と呼ばれたもので, これは三詩歌書あるいは真理(詩篇, 箴言, ヨブ記), 巻物(雅歌, ルツ記, 哀歌, 伝道の書, エステル記)と残り(ダニエル書, エズラ記, ネヘミア記, 歴代志)の3部に分れる。この配列順序はユダヤのマソラ学派(500～900年代)の手によって定められたものであり, ある程度

(a) 七十人訳旧約聖書に準じる現代語訳39書のそれとは異なっている。旧約聖書の内容は相互に密接に関連する歴史と教訓より成る。選民イスラエルの歴史は(b) アブラハムの召命に始まり, [18]の出エジプト, 律法の賦与, イスラエル民族によるパレスチナの征服, 近隣民族との戦い, (c) サウルとダヴィデによる王国の建設, 南王国の滅亡(587)を経て, バビロン捕囚後の祭司国家の発足にいたる約2000年の歴史であるが, そこでは神とイスラエル民族の契約, 神の救いというテーマが一貫して追求されている。それゆえ宗教的教訓の第1のものは創造主にして全知全能の唯一神についての教えであり, モーセの十戒には神の言葉として「[19]」と述べられている。旧約の特色はこのように現実の歴史のなかにこの神との契約, 神による審判と救いが生きて実現することを認めることにあり, さまざまな文学上の形式や多彩な資料の背後には, いわば預言者的史観ともいえるべき態度が存するといえよう。そしてこの預言者的史観が新約への道を開いているのである。

問1 文章中の空欄[14]～[19]に入れるのに最も適当なものを, 次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[14] ① 預言 ② 祝福 ③ 契約 ④ 啓示

[15] ① ギリシャ ② ヘブライ ③ ラテン ④ アラビア

[16] ① ヨハネの黙示録 ② カナン記 ③ ヤコブの手紙 ④ 出エジプト記

[17] ① モーセ ② イザヤ ③ イサク ④ ソロモン

[18] ① モーセ ② イザヤ ③ イサク ④ ソロモン

- [19] ① 汝、いかなる像も造るべからず
 ② 汝の神、主の名をみだりに唱えるべからず
 ③ 汝、われのほかにも何者をも神とすべからず
 ④ 安息日を心に留め、これを聖別せよ

問2 下線部(a)に関して、次の『七十人訳聖書』についての記述中の [20] に入る最も適切な語を、次の①～④のうちから一つ選べ。

『七十人訳聖書』とは、紀元前3世紀中葉から紀元2世紀にわたってなされた [20] 語訳の『旧約聖書』を総称していう。「セプトゥアギンタ」Septuaginta (70の意)ともよばれ、LXXと略記する。これは『旧約偽典』の「アリストテアスの手紙」がその成立事情を記し、プトレマイオス2世フィラデルフォス(在位前283～前247)の治世に、『旧約聖書』の五書の最初の [20] 語訳が、パレスチナから派遣された72人の長老により72日間でなされたとしたことによる。しかしこの伝説は伝説として、「七十人訳」の名称は、今日では五書にとどまらず、『旧約聖書』全体の最古の [20] 語訳の意に用いられている。キリスト教会がその形成期にこれを用いた。紀元2世紀以後はもっぱらキリスト教会で書写伝達された。

- [20] ① ギリシャ ② ヘブライ ③ ラテン ④ アラビア

問3 下線部(b)に関して、下のア～ウは、旧約聖書に描かれるアブラハムについての説明である。その正誤の組み合わせとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[21]

ア 「生まれ故郷を離れ、私が示す土地に行きなさい」という神の命令を受けてアブラムは親族と別れ、妻サライおよび彼に同行した甥のロトとともに神の示す地カナンに旅立った。

イ アブラハムはある夜、天使に襲われて、夜明け近くまで闘い続けた。腿の関節をはずされてもアブラハムは天使を離さず、闘いに勝利した。

ウ イスラム教ではアブラハムはイブラーヒーム(アラビア語: إبراهيم, Ibrāhīm)と呼ばれ、ノア(ヌーフ)、モーセ(ムーサー)、イエス(イーサー)、ムハンマドと共に五大預言者のうちの一人とされる。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ② | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ④ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |

問4 下線部(c)に関して、イスラエル王国の歴史についての記述文中の空欄 [22] ~ [25] に入る最も適当なものを。下の①~④のうちから一つずつ選べ。

[22] の地に定着し、唯一神ヤーウェ信仰を中心に国家的集団を形成するに至ったイスラエル諸部族は、前 11 世紀の終わりに、海の民ペリシテ人の侵入に促されて、[22] の地に初めて王国を樹立した。貴族的氏族出身のサウルが、宗教的権威者であり預言者であったサムエルから油注ぎを受けて聖別され、初代の王に選ばれた。武将ダヴィデとの悲劇的な争いののち、ペリシテ人との戦いに敗れて 3 人の息子とともに陣没した。その後ダヴィデが王位を継いだ。ペリシテの属王とみなされていたダヴィデは、ペリシテ人に反旗を翻し、優れた軍事力と政治力とをもってペリシテ人の支配から脱し、南北いずれの部族にも属さないエブス人の町 [23] を攻略し、南北両王国を同君複合の形で統治した。[23] を首都と定め、同地を政治、軍事、宗教上の一大拠点として、近隣諸国を征服し、さらにシリアのアラム人をも破って、南は紅海から北はユーフラテス川に達するイスラエル史上最大の支配領域を築き上げ、それを嗣子 [24] に残した。ダヴィデ王国は、兵制のうえからは傭兵制度的王国であった。[24] の即位は、イスラエル王国のカリスマ的理念を打ち破った王位世襲制の第一歩であった。[24] は、官僚国家の諸制度を確立し、人民に重税を課する一方、[23] に宮殿や神殿を建造し、黄金時代を築いた。とりわけ、活発な対外交易活動を通じて経済的発展を図り、軍備を強化して、万一の場合に備えた。広大な領土を防備するために、要害の地に高度な技術を投入して要塞諸都市を築き、強大な軍備を整えた。

[24] の酷政とその子レハベアムの暗愚とにより、王国は、南のユダ人とベニヤミン人とを含む南王国と、北の 10 部族からなる北王国との独立王国に分裂した (前 928)。北王国はサマリアをおもな拠点としてイスラエル王国の名を継承し、南王国は [23] を基盤としてユダ王国となった。北王国は、南王国よりも経済的、文化的に富んでいたが、宗教的には異教化の危険にさらされ、200 年の間に 8 回もの革命を重ねたのち、前 721 年アッシリア王によって滅ぼされた。一方、南王国は北王国滅亡後も存続し、アッシリア、エジプト両勢力の間に立たされて内政、外交ともに振るわず、前 586 年新バビロニア王 [25] によって滅ぼされ、すべての役人たちと上流階級が捕らえられバビロニアへ移された。

[22] ① ウル ② カナン ③ エジプト ④ フェニキア

[23] ① メギド ② ヘブロン ③ シケム ④ エルサレム

[24] ① ソロモン ② サルゴン 2 世 ③ アモス ④ ネブカドネザル 2 世

[25] ① ソロモン ② サルゴン 2 世 ③ アモス ④ ネブカドネザル 2 世

第5問 次の会話を読み、下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 10）

【資料1】



【資料2】

人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。
「ローマの信徒への手紙」『新約聖書』より

生徒A 【資料1】はレンブラントの作品、「[26]の犠牲」だね。アブラハムにやっと生まれたひとり子の [26] を燔祭に捧げるよう、神に命じられた出来事だよ。

生徒B ひとり子を神に生贄として捧げようとするくらい信仰が厚かったってことだろうけど、ちょっと理解できないな。児童虐待じゃないの？ 訴えられちゃうよ。

生徒A いや、モリヤの山には児童相談所はないでしょう。ところで、【資料1】は旧約聖書の出来事だけど、【資料2】は新約聖書の記述だよ。何か気づいたことはないかい？

生徒B キリストが「供え物」って発想が同じだね。あれ？ しかも、がひとり子を生贄にするってシチュエーションが同じじゃないか！ これは旧約で張られた伏線が新約で回収されたってことかな。

生徒A よく気づいたね。さらにいうと、キリストが贖った罪を犯したのが [27] だと考えられているんだよ。

生徒B なるほどね。これも旧約の伏線回収みたいだね。

問1 会話文中の空欄 [26] ～ [27] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[26] ① ヤコブ ② エサウ ③ アベル ④ イサク

[27] ① ユダ ② カイン ③ モーセ ④ アダム

問2 会話文中の空欄 と同じ言葉が入った聖書の文として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[28]

- ① 子羊が第七の封印を開いたとき、天は半時間ほど沈黙に包まれた。そして、私は七人の が神の御前に立っているのを見た。彼らには7つのラッパが与えられた。(ヨハネの黙示録)
- ② 私は にお願ひしよう。 は別の弁護者を遣わして、永遠にあなた方と一緒にいるようにして下さる。この方は、真理の霊である。(ヨハネによる福音書)
- ③ 私に向かって「主よ、主よ」と言うものが皆、天の国に入るわけではない。私の天の の御心を行う者だけが入るのである。(マタイによる福音書)
- ④ これがあなたと結ぶ私の契約である。あなたは多くの国民の となる。あなたは、もはやアブラムではなくアブラハムと名乗りなさい。(創世記)

問3 ユダヤ教の選民思想を表す記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29] (2010年追試)

- ① 厳しい自然に立ち向かうなかで育まれた信仰であり、世界の創造主が現世に遣わした神の子が、彼らを選びその繁栄と救済を約束した。
- ② 異民族との闘争のなかで育まれた信仰であり、彼らの血統が優れているがゆえに、人格を超えた神が、彼らを永遠の救いに導く約束をした。
- ③ 異民族からの圧迫などの苦難のなかで育まれた信仰であり、唯一の絶対神である人格神が、彼らを選びその繁栄と救済を約束した。
- ④ 厳しい自然に翻弄されるなかで育まれた信仰であり、人格を超えた神である宇宙の根本原理を理解できる彼らだけに、永遠の救いが約束された。

問4 ユダヤ教の歴史観として最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。[30]

- ① 神のわざによって歴史は永遠に繰り返され、イスラエル民族の約束の地での繁栄は尽きることなく未来永劫に渡って約束されている。
- ② 唯一の神がイスラエル民族を選んだのであり、この選ばれた民の歴史を通して神の意志が地上に実現している。
- ③ 神の国に至る者はあらかじめ神によって選ばれており、律法を厳格に守る者がイスラエル民族の歴史を作り出してきた。
- ④ イスラエル民族の中から救世主が生まれることによりすべての人類の罪は贖われたが、将来再び救世主が現れるとき、歴史は終わり死者が復活するとした。

第6問 次の文章を読み下の問い（問1～問9）に答えよ。（配点 18）

神を愛の神としてとらえたイエスは、神から与えられた律法の根本精神を、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、あなたの神である主を愛しなさい」と「隣人を自分のように愛しなさい」という律法の中の二つの言葉によっていいあらわした。つまり、愛によって人間を生かす神が人間に命じるのは、神への愛と (a)隣人愛であるというのである。もちろん彼は、愛の神について単に言葉で語っただけではない。(b)当時のおきてでは許されない行為を通じて、愛とはどのようなものであるかを具体的に示した。こうしてイエスは、(c)裁きの神、義の神であると同時に、それ以上に愛の神の姿を明確に示したのである。

問1 下線部 (a) に関して、「隣人」とは誰のことかについて、次のマザーテレサの言葉を読み、この文に最もよく合致するものを、以下の①～④のうちから一つ選べ。[31] (2003年本試験)

この世の中で、私たちがたんなる数ではないと思うことは、素晴らしいことです。私たちは神ご自身の子どもです。インド、日本、アメリカ、ヨーロッパに住む人も、そして世界のどの地域に住む人びとも、みな私の兄弟、私の姉妹なのです。あのととてもさみしそうな人、とても貧しい人、とてもかわいそうな人、そしてとても偉い人も、私の姉妹、私の兄弟です。……神はすぐそこにおられます。どこ？ 貧しい人びとのなかに、私の家族の母、兄、妹、夫や妻のなかに。そこにいらっしゃるのです。（マザーテレサ『命あるすべてのものに』）

- ① 様々な状況において出会い、神の愛のもとで共に生きる人間。
- ② 同じ神を信じ、お互いの利益をはかり合う宗教的な共同体のメンバー。
- ③ 血縁でつながった家族や親族、あるいは同一の民族に属する人間。
- ④ 恵まれた人たちからの経済的な助けを必要とする社会的弱者

問2 下線部 (b) に関して、イエスが行った当時のおきてでは許されない行為として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[32]

- ① 律法に基づいて処罰されるべき罪人をゆるす行為
- ② 安息日に病人を癒す行為
- ③ 徴税人や罪人と食卓をともにする行為
- ④ 神殿の偶像を破壊する行為

問3 下線部 (c) に関して、裁きの神、義の神の教えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[33]

- ① 自分の息子が井戸に落ちたら、安息日だからといって引き上げない者がいるだろうか。
- ② 種を蒔く人の蒔いた種はあるものは百倍の実を結び、あるものは枯れてしまった。
- ③ 神の国はパン種に似ている。これを粉に混ぜるとやがて全体が膨れる。
- ④ 外から人に入るものではなく、人の中から出てくるものが人を汚すのである。

問4 イエスの贖罪の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[34]
(2016年追試験)

- ① イエスの贖罪とは、ユダヤ教における贖罪の考え方と異なり、犠牲を伴わずに人々の罪の赦しを得るためのものである。
- ② イエスの贖罪とは、神の子の死によって、人の力だけでは逃れられない罪から人々を解放するためのものである。
- ③ イエスの贖罪とは、ユダヤ教における最後の預言者として、この世の終末の時に人々の罪を清算するためのものである。
- ④ イエスの贖罪とは、神が与えた律法そのものを無効とし、新たな愛の掟(おきて)によって人々の罪を浄めるためのものである。

問5 次のア～ウはイエスと食に関(かか)わる記述である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。[35] (2013追試験)

- ア イエスは、人はパンだけで生きるものではないと語り、神を愛することと隣人を愛することの二つの実践こそが人が生きるうえで重要だと主張した。
- イ イエスは、当時の社会で差別されていた者たちと食卓をともにし、神の愛がそうした人々にも差別なく与えられるものであることを示した。
- ウ イエスは、捕われる直前に弟子たちと食事をし、人々が律法を破った罪のために犠牲となる自らの体と血を、パンとぶどう酒になぞらえた。

- ① ア 正 イ 正 ウ 正
- ② ア 正 イ 正 ウ 誤
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 正
- ④ ア 正 イ 誤 ウ 誤
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑥ ア 誤 イ 正 ウ 誤
- ⑦ ア 誤 イ 誤 ウ 正
- ⑧ ア 誤 イ 誤 ウ 誤

問6 イエスの説く神の国の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
[36] 【2011年センター本試験】

- ① ローマ帝国による政治的支配を打破し、神から遣わされた救い主によって立てられる国
- ② 神に選ばれた民であるユダヤ人およびキリスト教への改宗者たちが、入ることを約束された国
- ③ 自らの罪を悔い改めて、互いに愛し合う人々の間に、精神的な出来事として実現する国
- ④ 生前、神から与えられた戒めを守った者が、死後、平安の地として入ることを約束された国

問7 驕る富者に対して批判的であったイエスは富と幸福との関係について、次のように述べている。イエスの神の国についての考え方を踏まえ、この文章の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[37] (2012年追試)

さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。……しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、あなたがたは悲しみ泣くようになる。……」 (『ルカによる福音書』)

- ① イエスは、富が幸福をもたらすという現世の価値観を逆転させ、この世で富を持っている人は、既に神から恩寵を受けているため、もう神の国に行くことができないと述べている。
- ② イエスは、富が幸福をもたらすという現世の価値観を否定し、将来、貧富の差が解消された国家が実現し、今は富を持たない人々も幸福になることを約束している。
- ③ イエスは、富が幸福をもたらすという現世の価値観を逆転させ、この世の富に満足している心の状態のままでは、その人は神の国に入ることはできないと主張している。
- ④ イエスは、富が幸福をもたらすという現世の価値観を否定し、現世において富を持たない人に対してのみ、救済へ至るための実践的な生活規定を教えている。

問8 新約聖書の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38] (2009年追試)

- ① 新約聖書の「新約」とはイエスがもたらした神と人間との新しい契約であり、旧約聖書の律法は完全に否定されている。
- ② 新約聖書ではイエスが救い主キリストであるという信仰と、イエスの十字架上の死による神からの罪の赦しが語られている。
- ③ 新約聖書では神の国が到来したこと、また神の国とローマ帝国などの地上の国との戦いが終結したことが述べられている。
- ④ 新約聖書では神の無償の愛であるアガペーと、それにこたえて真の实在としての神へ向かう愛であるエロースとが説かれている。

問9 次の福音書の記述の発言者として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[39]

わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、**聖霊**と火であなたたちに洗礼をお授けになる。(マタイによる福音書/03章11節)

- ① アリマタヤのヨセフ
- ② ポンティウス・ピラトゥス
- ③ キレネのシモン
- ④ バプテスマのヨハネ

第7問 次の文章を読み下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 22）

「復活したキリストこそ真の救い主」と証言する使徒たちのもとに生まれた小さな群れは、最初「ナザレ派」と呼ばれ、ユダヤ教の一分派とみなされたが、次第にユダヤ教とは別の信仰であることが人々の目にもはっきりしていった。まもなく彼らは「[40]（イエスを油注がれたメシア、救い主と信じる者の意）」と呼ばれるようになっていった（使徒言行録11・26参照）。初め使徒たちは、地中海沿岸都市に離散していた[41]を宣教の対象としたようである。イエスの十字架上の死からわずか20年から30年ほどの間に、パレスチナから数千キロも離れたローマをはじめ沿岸の主な町にキリスト信仰が伝播し、早くもそこにはキリスト共同体（教会）が形成された。

紀元70年に勃発したユダヤ戦争では、ローマ軍はユダヤ教のより所であったエルサレムの神殿を徹底的に破壊し、ユダヤ人は祖国を失って各地に離散していった。一方、ユダヤ教からたもとを分かつことになったキリスト教は比較的順調に拡大していったものの、1世紀の教会内部には早くも対立がみられた。あくまでもユダヤ教の遺産（割礼や儀式などの宗教的な規定や民族主義）を守ったうえでキリスト教信仰のあり方を考えようとする一派と、キリストの[42]はそれらを超えたところにあるとする、いわゆる「異邦人[40]」との対立である。結局、[43]が提唱した後者の信仰観が主流となり、キリスト教信仰は民族や言語、性別や社会の身分などに左右されるものではなく、神の国の[42]をどのように受けとめるかにかかっているとみなされた。まさにキリストの[42]は「民全体に与えられる大きな喜び」（ルカ2・10）と理解されていったのである。

ローマ帝国の精神的風土は多神教とヘレニズム文化によって彩られていた。そうしたなかにも広がっていったキリスト教は、自己の純粋さを保つために当初から幾つかの戦いに直面しなければならなかった。一つは帝国内で盛んであった種々の密儀宗教との対決である。その多くはキリスト教の洗礼や聖餐式に類似した儀式を行っていたため、聖書信仰との境目があいまいになる危険性が常にあった。また一方では、宗教の本質は[44]を得ることであるとする哲学的な宗教も盛んだった。それは、霊肉二元論をうちたて、精神や魂を罪と滅びの原理である物質や肉体よりも優れたものとみなしていた。ごく初期から教会内部にはこの立場からキリストを理解しようとする者が現れ、キリストは[44]の現れであり、地上のイエスの肉体は仮にそう見えただけのことと唱えた。しかし、そうなれば神のことばの受肉や十字架の贖いも意味をなさなくなってしまうとして、早くも使徒[43]たちは、こうした異質の信仰と戦わなければならなかったのである。

問1 文章中の空欄[40]～[44]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[40] ① ゼーロータイ ② パリサイ派 ③ エッセネ派 ④ キリスト者

[41] ① ユダヤ系移民 ② 律法主義者 ③ 異邦人 ④ ローマ市民

[42] ① 再臨 ② 律法 ③ 福音 ④ 復活

[43] ① ヨハネ ② パウロ ③ ペテロ ④ ルカ

[44] ① 聖霊 ② グノーシス ③ 一者 ④ 知性

キリスト教がヘレニズム世界に広がるにつれ、本来の信仰内容を保ちながらヘブライ的、聖書的な枠組みを超えて、ギリシヤ的な思弁によってどのようにイエス・キリストを再理解し、それを適切に表現するかが問題になってきた。ことに東方教会では激しい教義論争が展開され、4世紀初めのアリウス論争から8世紀の聖画像論争に至るまで、教会は正統と異端をめぐって激しく揺れた。このような論争はしばしば宮廷内部の権力抗争とからんで、いつそう複雑な状況を呈した。

教会は問題解決のために、司教を中心とする「公会議」をしばしば開催し、論争に決着をつける場とした。なかでも325年の第1ニケア公会議、381年の第1コンスタンチノーブル公会議、451年のカルケドン公会議は、教会史上重要な意味をもった。これら一連の論争と公会議の諸決定は、次の点を正統信仰として確認したのである。すなわち、イエス・キリストは真の神にして真の人である。父と子と聖霊は等しい神性を有する唯一の神である。キリストの[45]のうちには神性と人性が分離も混合もなしに、しかも区別されて存在するということである。これらは、いわゆる[46]と呼ばれ、世界信条としてキリスト教共通の遺産とみなされ、今日に至っている。

問2 文章中の空欄[45]～[46]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①～④のうちから一つずつ選べ。

[45] ① アガペー ② ペルソナ ③ ウーシア ④ トリニティ

[46] ① ヘテロウシオスと神人両性論 ② ヘテロウシオスとキリスト単性論
③ 三位一体と神人両性論 ④ 三位一体とキリスト単性論

問3 原罪に関するアウグスティヌスの考えを説明したのとして最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。[47] (2005年追試)

- ① すべての人間は、原初の人間のふるまいに起因する不道德な欲望、つまり原罪を負っている。それゆえ人間は、理性の指導に従い神の实在を論証していく過程を通して、この欲望から解放されていき、やがて救済される。
- ② 人間は、天地の初めから、生まれつき自己中心的な性質を神に負わされている。その性質こそが原罪である。人間は自らの自由意志によって神への信仰を選び取り、それを通して神の恩恵を獲得しなければならない。
- ③ この世は善と悪という対立し合う二つの原理から成り立っており、すべての人間は悪の原理、つまり原罪に支配されている。人間は、神に従順であったころの原初状態へと復帰し、そこに全面的に没入することで救済される。
- ④ 原初の人間が自由意志を悪用して神に背いたため、すべての人間は生まれつき原罪を負っている。それゆえ人間は自由意志によってではなく、神からの一方的な恩恵によってのみ救済され、善に向かうことができるようになる。

問4 元来、英語の《science》という語は、ラテン語のスキエンチア（知識一般）に由来する言葉であった。13世紀に最盛期を迎えたスコラ哲学は、中世におけるスキエンチアの典型とみなされる。そのスコラ哲学の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]（2010年本試験）

- ① 存在忘却に陥った形而上学を解体し存在への問いを新たに開始する。
- ② ギリシア・ローマの古典を学ぶことによって人間の自立性を回復する。
- ③ ギリシア以来の哲学を用いキリスト教神学の教義を理論的に体系づける。
- ④ ただ生きるのではなく善く生きるための方法を対話によって学ぶ。

問5 トマス＝アキナスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[49]（2006年追試）

- ① 神や自由というのも感覚的印象に由来する観念であり、それは習慣によって身につけられたものにすぎないとした。
- ② 理性的に正しいとされる真理と啓示された信仰の真理とは別であり、各々は独立的に存在するとした。
- ③ イスラム世界経由で流入した古代ギリシア哲学を用いて、キリスト教神学をいっそう精緻に体系化した。
- ④ キリスト教の三元徳である信・望・愛にギリシアの四元徳を従属させ、それらをあわせた七つの徳を初めて説いた。

問6 キリスト教神学に関する文の中で、カンタベリーのアンセルムスについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 彼の哲学と神学には論理的観点が貫かれており、『論理学大全』に代表されるその立場は唯名論と目されるが、異端の嫌疑をかけられ、修道会の貧困の教説と教皇権の問題も加わって、破門された。
- ② キリスト教思想に対する彼の大きな貢献の一つは、ラテン語による神学上の用語および哲学上の用語の創作であり、ペルソナという概念は彼によって初めて専門的に用いられた。「不合理ゆえにわれ信ず（クレド・クイア・アブスルドゥム）」という言葉は有名。
- ③ パウロの反律法主義を極端な形で発展させ、律法に対して福音を、旧約の神に対して新約の神を強調した。イエス・キリストは新約の善の神が人間の姿をとって現れたものであり、陰府に下って人間をそのしがらみから救うと考える。
- ④ 信仰者には信仰の合理性を示し、信仰者には信仰の理解を求めるという二重の機能をもつものであった。すなわち「知らんがために信ず」の命題は、信仰に関することながら、直接聖書に依拠して証明するのではなく、むしろ理性による論証の道をたて、その極限で理性の転換を明らかにする方法として自覚された。

問題は以上です。